「平成２９年度普及に移す成果」

大豆認定品種「里のほほえみ」の高品質・安定栽培法

みんなで進めよう
茨城農業改革

農業総合センター農業研究所

本県の大粒大豆の主力品種「タチナガハ」は、青立ち症状が多発し、収穫時期の遅れによる減収や品質低下が問題となっていました。このため、青立ちしにくい大粒大豆「里のほほえみ」を平成27 年に認定品種に採用し、今後の普及拡大が見込まれます。そこで、高品質（紫斑粒、しわ粒、裂皮粒などの被害粒及び未熟粒混入率 15%以下；農産物検査における一等最高限度）かつ目標収量250kg/10a が得られる栽培法を開発しました。

ここがポイント

播種適期は６月 20 日～７月 10 日

水戸市（表層腐植質黒ボク土）、龍ケ崎市（中粗粒灰色低地土）ともに、７月 10 日播種までは目標収量 250 kg/10a 以上を達成します（図１）。また、外観品質は、６月 30 日播種で最も被害粒及び未熟粒混入率が低いことから（写真１）、高品質多収となる播種適期は、６月 20 日～７月 10 日となります。

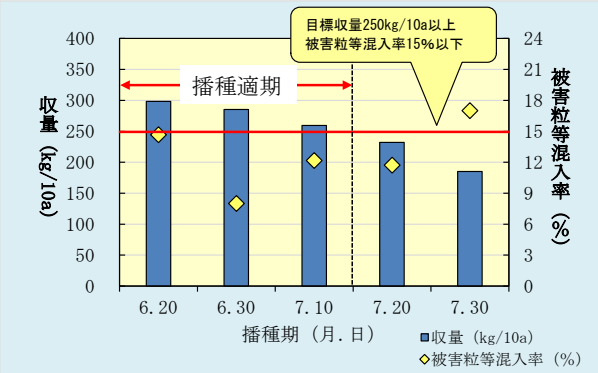

図１　播種期別の「里のほほえみ」の収量と品質

注）龍ケ崎市所内、H26～H28 の平均値、畦間 60cm・株間 15cm

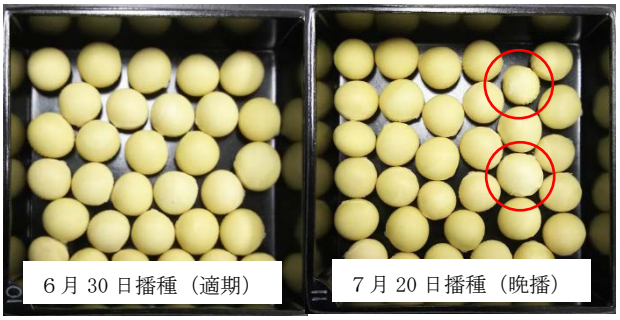

写真１　「里のほほえみ」の子実の外観

注）平成 28 年産、畦間 60cm、株間 15 cmの子実。
６月 30 日播種は、しわ粒（赤丸）等の被害粒の発生が少ない。

適期より遅い播種期は狭畦栽培

水戸市、龍ケ崎市ともに、適期より遅い播種期では、畦間 30cm、株間 10～15cm の狭畦栽培により目標収量・品質を達成できます（表）。

表　狭畦栽培と標準栽培の「里のほほえみ」における播種期別の収量と品質

畦間	播種期（月.日）		成熟期（月.日）	収量（kg/10a）	被害粒等混入率（%）
30cm（狭畦）	6.30	播種適期	10.25	342	13.9
	7.10		10.27	303	13.5
	7.20		10.31	286	7.5
60cm（標準）	6.30	播種適期	10.25	294	11.1
	7.10		10.27	265	10.2
	7.20		10.29	247	10.5

注）龍ケ崎市所内、H26～H28の平均値。株間10cm、15cmの平均値。

播種期が遅れても、狭畦栽培で目標収量・品質を達成できます

活用上の留意点

・「里のほほえみ」は、「タチナガハ」と同様にダイズシストセンチュウに弱いため、連作は避けましょう。
・７月 20 日以降の播種期では、成熟期が「タチナガハ」より遅くなるので、適期播種を心掛けましょう。
・「里のほほえみ」は、「タチナガハ」より成熟期以降も莢がはじけにくいですが、収穫の遅れにより品質の低下を招くため、適期収穫を心掛けましょう。

＜　問い合わせ先：農業研究所　水田利用研究室・作物研究室　Tel 0297(62)0206、029(239)7212＞